

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念、事業所の理念を掲げ、「我が家」であることを大切に、地域の一員として暮らせるよう支援している。家族、近隣住民、ボランティアと日常生活、行事などで関わる機会を作っている。	「地域の中で共に暮らす」という理念を掲げ、理念を意識し、地域行事の情報収集し、地域の一員として積極的に行事に参加し交流している。玄関・事務所の掲示や朝礼・ユニット会議等で、理念を共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の床屋、スーパー、飲食店などを利用している。保育園との交流、敬老会、盆踊りなど地域行事に参加している。納涼祭を開催し、近隣住民の参加があった。ボランティア、学生の職場体験を受け入れている。	保育園児とジャガイモ植えから収穫まで一緒に取り組んだり、話し相手・掃除ボランティアの定期的訪問・地元の中・高校生の職場体験の受け入れ等行なっている。ホームの納涼祭には、回覧で案内を出し、近所の方や子供たちが来て一緒に楽しみ、交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭など地域との交流はみられるが、地域の方を対象にした啓蒙活動等はまだ行っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、家族会代表、町内会長を含むメンバーで開催している。ホームの活動、取り組み状況評価結果を報告し意見を頂いている。意見を基に会議で検討し、サービス向上に活かしている。	市の職員・包括・町内会長・民生委員・家族会代表の出席で定期的に開催している。昨年の災害後に災害時の対応について話し合ったり、運営推進会議時に避難訓練を行ない、メンバーに参加してもらった。多くの意見をもらい、今後の取り組みについて話し合い、災害対策に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターの担当者とは、会議やその他日常的に情報交換を行っている。	運営推進会議に市の担当者が出席しており、情報交換している。市役所に出向き広報誌や運営推進会議録を提出したり何かあれば相談している。市に働きかけてグループホーム連絡会を発足した。定期的に開催し、市と協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議等で身体拘束をしないケアを話し合い、理解して取り組んでいる。施錠せず、ユニット入口には鈴を付け工夫している。向精神薬についても随時検討出来る。主治医への報告や相談も行っている。	事故の検討と同時に、身体拘束について学ぶ機会を設け、職員は理解している。利用者の日々の行動から薬について話し合い、かかりつけ医に情報提供し薬の検討をしてもらい、薬による行動制限にも配慮し取り組んでいる。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して伝達講習を行い、全職員で意識の統一を図っている。入浴等日々のケアでも注意して全身観察を行ったり、安楽な介助方法を随時話し合い虐待防止に努めている。	虐待の防止の研修に参加した職員が、研修参加後に伝達講習を行い、全職員が学ぶ機会を設けている。職員のストレスを少しでも軽減できるよう業務について話し合ったり相談や話をよく聞き、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでおり、必要性を随時検討している。成年後見制度を利用している方、申請手続きを進めている方もおられる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には文書で提示し、家族会や面会時にお話しし理解を得ている。質問、疑問には随時回答している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族会、運営推進会議で意見を表せる場を設けている。面会時など意見をお聞きし、些細な意見や要望も取り入れられるよう努めている。	面会時、状態を報告した際に要望等積極的に聞いている。温度調整・洗濯物管理・個々の対応等、様々な意見・要望ももらっている。どんな些細な要望でも全職員で検討し反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で意見交換はできている。委員会活動などで積極的な企画や提案が出来るよう意見を聞いている。	年2回の面談や日頃から何でも相談できる関係が構築されており、日頃から意見を提案しやすい環境である。利用者にくつろいでもらいたいという思いから、ソファやベンチを購入した例があり、サービスに反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理や定期的な面接によりやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。就業状況や資格取得等個々の希望がかなえられるよう職場環境に配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修の機会を個々に持っている。事業所内でも委員会を中心に月に1回勉強会の時間を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他事業所とは管理者、ユニットリーダーを中心に定期的な交流を行っており、慰労会などで他事業所との親交を深めている。交換研修でお互いの良い点を学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族にフェイスシートを記入して頂き、生活歴の把握しケアに当たっている。事前の話合いを通し、希望や不安の軽減に努めている。面会時に家族を交えて、要望や不安を話せる場を作っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で家族の要望や不安をお聞きし良い関係作りに努めている。面会時にも、状態の報告を交えて話しあっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な話し合いの時間を設け、当グループホームでの支援や他サービスについての説明も行い、希望を聞いている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、趣味など本人が今まで行ってきた事や得意な事、現状で出来る事は入居者自身が行えるよう支援している。本人の能力に応じて出来ることを依頼し、職員が指導を受ける場面も作っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人、家族の意向をお聞きし、一時帰宅や外出など、入居者が家族と過ごせる時間を作っている。孫の結婚式や法事にも参加している。	家族会で日頃の様子をビデオ撮影したものを見てもらったり、状態を密に報告し家族と共に支えていく関係を築いている。家族の協力で外出や誕生日を一緒に祝う等、家族と過ごす機会を多く設けている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会だけでなく、入居者の要望に合わせて外出支援を行っている。遠方の親族には入居者直筆の手紙や写真のやり取りをして近況報告を行っている。	馴染みを把握し、関係を断ち切らないよう希望に応じて、山菜とり・神社・寺・利用者の実家に出かけお茶を飲んだり、親戚の所に行く等支援している。家族の協力でお墓参りに出かけたり、友人との関わりも大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでお互いに声を掛けあえる良好な関係作りを支援している。入居者の状態によって住環境の配置を検討し、和やかな雰囲気作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族から電話や面会があり、交流がある方もいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、本人本位の暮らしや意向を把握している。普段の言動の中から希望を察したり、表情や仕草、生活歴を参考に意向を汲み取る努力をしている。	フェースシートを元に、今迄の生活を中心とし本人・家族から聞くようにしている。意思疎通が困難な場合は、関係者からの情報や職員全員が関心を持って日々の行動や表情から汲み取り、把握する様にしている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式、フェイスシートを本人、家族に記入して頂き、生活歴や趣味、嗜好などの把握に努めている。	センター方式を用いて、家族より日常的な習慣・好きなもの・大切にしている事等聞き取る様にしている。プライバシーに配慮しつつ、これ迄の暮らしの積み重ねが重要と捉え、取り組んでいる。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で職員と1対1で関わる時間を作り観察を行っている。各職員の気づきを生活記録や送りノート、メールで報告し合い、現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、アセスメントシートを本人や家族、職員で記入している。状態に応じて見直しを行い、ケアカンファレンスやユニット会議で意見を出し合ってケアプランを作成している。	月1回担当者や他職員と共に家族のニーズを中心にカンファレンスを行い、気づき・意見・要望を反映するようにしている。又必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画を作成、3ヶ月に1回は評価見直しを行なっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、気づきノートなどにより常時、職員間の情報共有はできている。ユニット会議の際カンファレンスを行いケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により訪問リハビリ、アロマのサービスを利用している。ご家族の状況などにより受診の介助や本人の希望のところへ外出したりニーズに対応したサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊り、敬老会、芸能祭などの地域行事に参加している。医療機関も在宅時の主治医を継続している。近所の床屋やスーパーを利用している。畑での農作業を行っており、農作業の時は保育園との交流もある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医への受診を継続している為、医師との信頼関係は築けている。受診前後は家族と希望をお聞きし、必要な医療機関への受診も行っている。	主としてかかりつけ医に職員が通院介助で受診している。状態経過は日常的に記録し受診時に持参する事により情報の共有はされている。症状や介護状態が重い方は、往診可能な事もあり、医療機関との関係も密に結んでいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師がいない為、主治医、訪問リハビリPTへ状態報告や相談を行い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療関係者やご家族との情報交換を密に行い、出来るだけ早期に退院できるよう努めている。退院後も安全安楽に生活できるようソーシャルワーカー等と連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への希望について家族へ意向の確認をしている。また、事業所の対応についても説明し、話し合っている。主治医へ相談、助言をもらっている。	入居時、ホームの方針・対応を説明しており、家族に意向確認行ない、状況に応じて本人・家族と話し合いを重ねている。その人らしいケアに繋がれるよう、チームで方針を共有しているが、医療も含め今後の体制について検討中である。	家族の意向でもあり、本人にとってどうあったら良いのか、ホームの対応し得る最大の支援を医療機関とも話し合い、終末期を支えていけるか見極め、対応を検討しニーズに合ったケアが出来るよう期待したい。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習受講。急変時のマニュアルが配備されている。会議時に緊急時の対応の勉強会を行っている。	他疾患の合併症を持つ利用者もあり、講習・研修は特に力を入れ訓練・技術を習得している。夜勤時の救急対応もマニュアルを整備し周知徹底を図っている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定避難訓練があり、町内会の参加や協力も得られている。	運営推進会議開催日を避難訓練日とした事により、出席者と共に訓練し、その後の会議ので多くの意見をもらい有意義なものとなった。其の他、夜間時の避難訓練も施行し、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の状態や性格等を理解し、その人にあった声掛け等を行っている。常時見守りや誘導が必要な方には時に、見守りではなく見張りになってしまう感がある。	年長者としての敬意を払った対応に心掛けているが、時には言葉かけが馴れ合いの中で配慮に欠ける事もあり、日々振り返る事で確認し合える様全員話し合っている。	利用者の其の人らしい尊厳ある姿を大切に、人格の尊重が対人援助の基本・原則と考え、目立たず・さりげない言葉で対応に配慮される事が望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での問いかけや選択できる機会作り自己決定できる場を設けている。二者択一など、意思表示し易いよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の重度化もあって、外出支援は以前よりは減っている。普段の会話などから買い物、外出、散歩などの予定を立てて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時整容の声掛け、介助を行なう。手鏡や口紅クリームなど希望に合わせて用意している。着たい服を外出時や入浴後に選んで着ていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外出時、希望する店での外食支援が行えている。苦手なメニューがあったら好みのものに変えて提供している。準備、後片付けはお客が進んで行っており、職員はトラブルや事故が無いよう見守りしている。	献立は、利用者の希望も取り入れており、栄養面に配慮し1週間ごとに職員が交代で作成している。買い物・下準備・簡単な料理・洗い物等、利用者と職員共に楽しみながら一緒に行っている。個別で受診後等、外食も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる場所や食器なども検討し、食べやすい環境、状態を作っている。毎食の食事量チェックを行い必要な方には補食を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の防止、個々の状態にあった口腔ケアを毎食後に行っている。夜間は義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い排泄ができる支援を行っている。	個々の排泄要因をチェックし、さりげなく個別の排泄支援をしている。清潔で使いやすいトイレを保つ事により不安の軽減を図り、自立に向けた支援となっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけではなく、水分補給、センナ茶や食事などで排便を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望あれば毎日の入浴も対応している。しょうぶ湯、ゆず湯等の季節に合わせて入浴を楽しめる工夫をしている。友人と2人での入浴や音楽を楽しめるようCDを流している。	温まる事により安眠を促す事と捉え、利用者の希望に添い、連日・隔日・好きな様に入浴している。拒否する利用者には職員を変えて促したり、清拭をする等個々の支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングで昼寝、就寝されている。不眠時は水分やココアを提供し、お話しをお聞きしたり、冬季は湯たんぽや電気あんかを希望に合わせて使用している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で共有し、会議で内服検討をしている。服薬情報を一覧にして掲示している。個人ファイルに薬剤情報が入っているので副作用等の確認も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、各々の趣味を継続できるように支援している。野菜作り、花植えや水やり、冬季は編み物、書道など個人に合わせた活動を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望あれば外出支援している。春、秋は家族参加型の外出レクリエーションを催している。天気のいい日は外でお茶のみをしている。	年間行事として春・秋の花見や温泉の他、日常的に職員と又家族・友人・親戚の協力を得て外食・買い物・近所のドライブ等ストレス発散のチャンスと捉え、日々の中で楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望あれば本人財布で小遣い管理し、買い物を行なえるように支援している。支払いの支援も行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話を繋いでいる。近況報告、おたよりを発行するときには、直筆の手紙を同封出来るよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>消防署の点検、危険箇所チェックを定期的に行い、安全面も確保できている。食堂との行き来が出来るので食事の匂いや音があり生活感がある。冬には炬燵を設置したり季節を感じるように工夫している。</p>	<p>共有生活空間は清潔に保たれ、何処でも腰掛けられるよう彼方此方に長椅子や椅子が置かれている。仲間同士居心地良く過ごせるよう、あえて死角の部分を作る等、工夫している。イベント時の楽しそうな写真が貼られ、花など季節感の彩りも感じられる。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>1人掛けソファの設置やソファの配置を適切に置くなど工夫している。その時々で、選択して過ごせている。フロア内、必要箇所に手すりがついており、バリアフリーにもなっている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際は、馴染みの家具、布団を持ち込んで頂いている。仏壇や位牌、茶碗や湯飲みなども使い慣れた物を使用している。家族の写真や装飾なども好みに合わせて工夫している。</p>	<p>本人・家族と相談し、家具や家族の写真・手作りの作品等、馴染みのものを持ち込んでいる。自宅の居室を意識した配置にし、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>危険箇所チェック表を使用している。トイレ等場所がわかるように張り紙を行なう。居室には名札や暖簾を見やすく設置してある。個々の状態に合わせた声掛けや対応についてもユニット会議で検討している。</p>		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					